

本草図譜卷之八十三目録

喬木類

桐	一	頽桐	解集	とらきり	三
椅桐	解集	梧桐	あせきり	五	
嬰子桐	六	榔桐	不詳	七	
海桐	不詳	棟	あふち	七	
一種	九	槐	あふち	十	
一種	十一	一種	いぬきり	十二	

山野に多し樹直立して高さ二三丈許り葉初生紅色を帯びて茶の如く形相の
 葉小似て三角形あり葉も紅色の夏月枝の梢に穂を結ぶ小花を同く淡黄小
 如し

あかめか
 外豫
 あさいば
 外桐
 ありき
 外桐
 あかち
 口上
 加寺
 楠
 楠
 廿款
 廿款

本草図譜

本草図譜

卷之八十三

一

檀	志不 <small>ぢ</small>	十三	菘蓮	かま <small>ぢ</small>	十五
一種	お <small>ぢ</small>	十六	秦皮	と <small>ぢ</small>	十七
一種	お <small>ぢ</small>	十九	一種	いと <small>ぢ</small>	廿
一種	め <small>ぢ</small>		合歡	お <small>ぢ</small>	廿一
皂莢	か <small>ぢ</small>	廿三	一種		廿四
猪牙皂莢	解集	廿五	肥皂莢		廿六

本草図譜卷之八十三

喬木類

桐

ひとぢ

かり

白鐵樹

甜事物

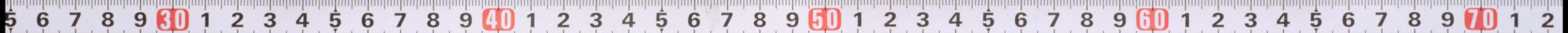
棠榔上

同水

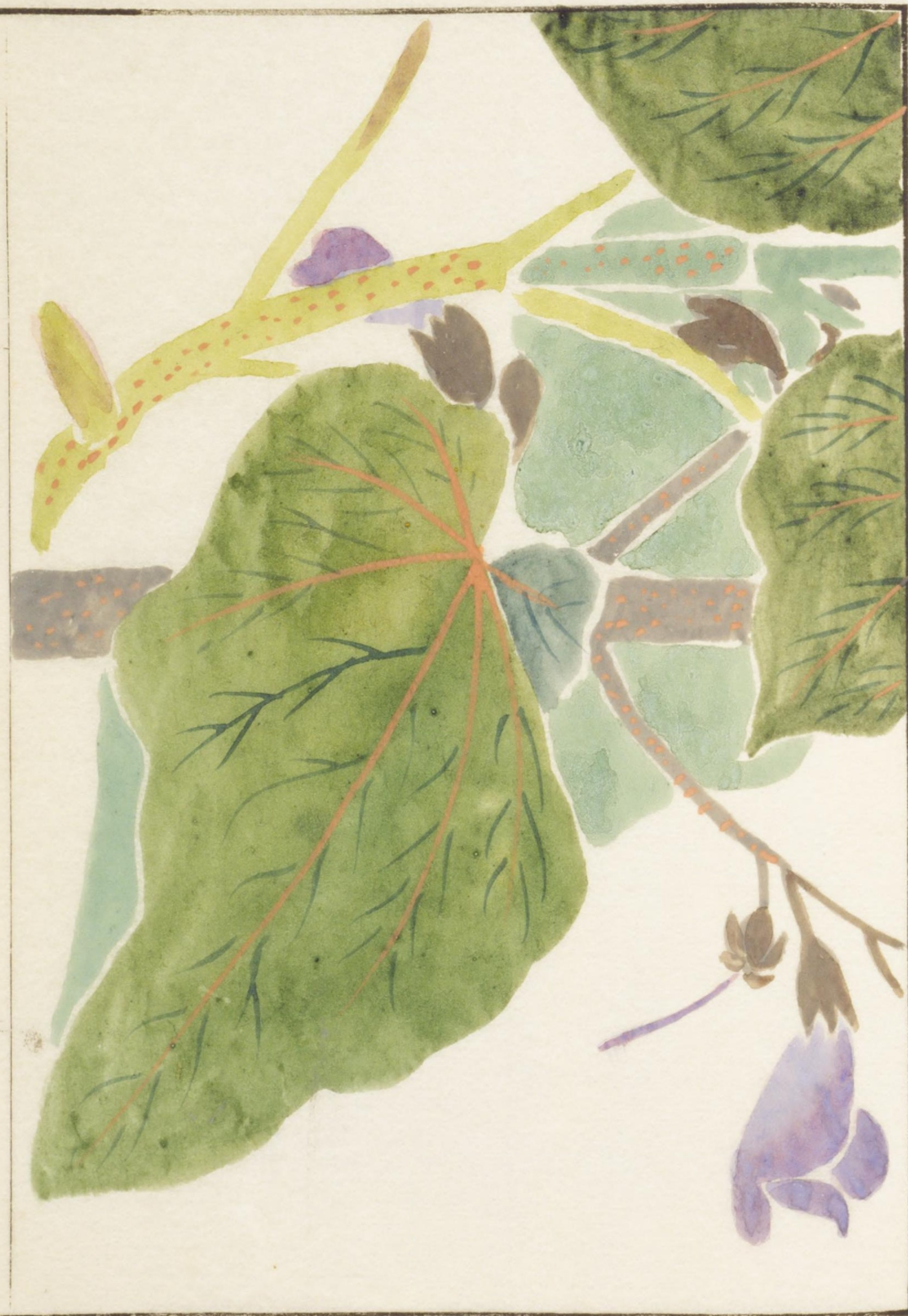
和方書

東都 岩崎常正著
男 岩崎信正
門人 小山廣孝校

本草図譜 卷之八十三



本草図譜 卷之二十三



本草図譜 卷之二十三

本草図譜 卷之八十三

太和本草云此木さねハ早く長ク成リ
 云々田村氏ハ此物をあまきうといふ紫花
 白花の二種あり紫花の物ハ江戸近郊不多
 人家園圃ニ培養ハ稍ハ冬月より蕾を生
 一春のホ不芽ク長キ房をおハ花族生一閑
 く時ハ淡紫形胡麻の花の如ク大ク長ク一
 寸許リ從テ実を結ハ大サ大母指の如ク長
 さ一寸余内對生して大ウツもの尺余ふ内ニ
 種子あり地ニ下ニ生一易ク花を採るを生
 亦多ク尋とけ此樹 籬竹相枕不作一 種白花
 の物あり形状ハ紫花の物と同一唯木ハ紫花
 の物より下とあり



本草図譜 卷之八十三



本草図譜 卷之八



元暖国の産物甚寒をも
恐る固て冬ハ密不巻ふハ
葉の形田ノて先尖々ノ
ハ周リハ鋸齒あり 大葉
ノハ一尺許り夏月稍小長キ
穂を生一枝を分チ数花
を同く解萼皆赤色秋
小至るまで長く花あり

頼桐 解集

とらごり ひきり

本草図譜 卷之八



本草図譜

卷之八



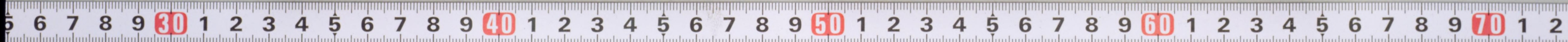
桐の類なり木直上葉
 楸より具梧桐に似て又
 く鋸齒ありて互生し秋梢に
 多実を結ぶ苦楸に似て小く紅色
 あり

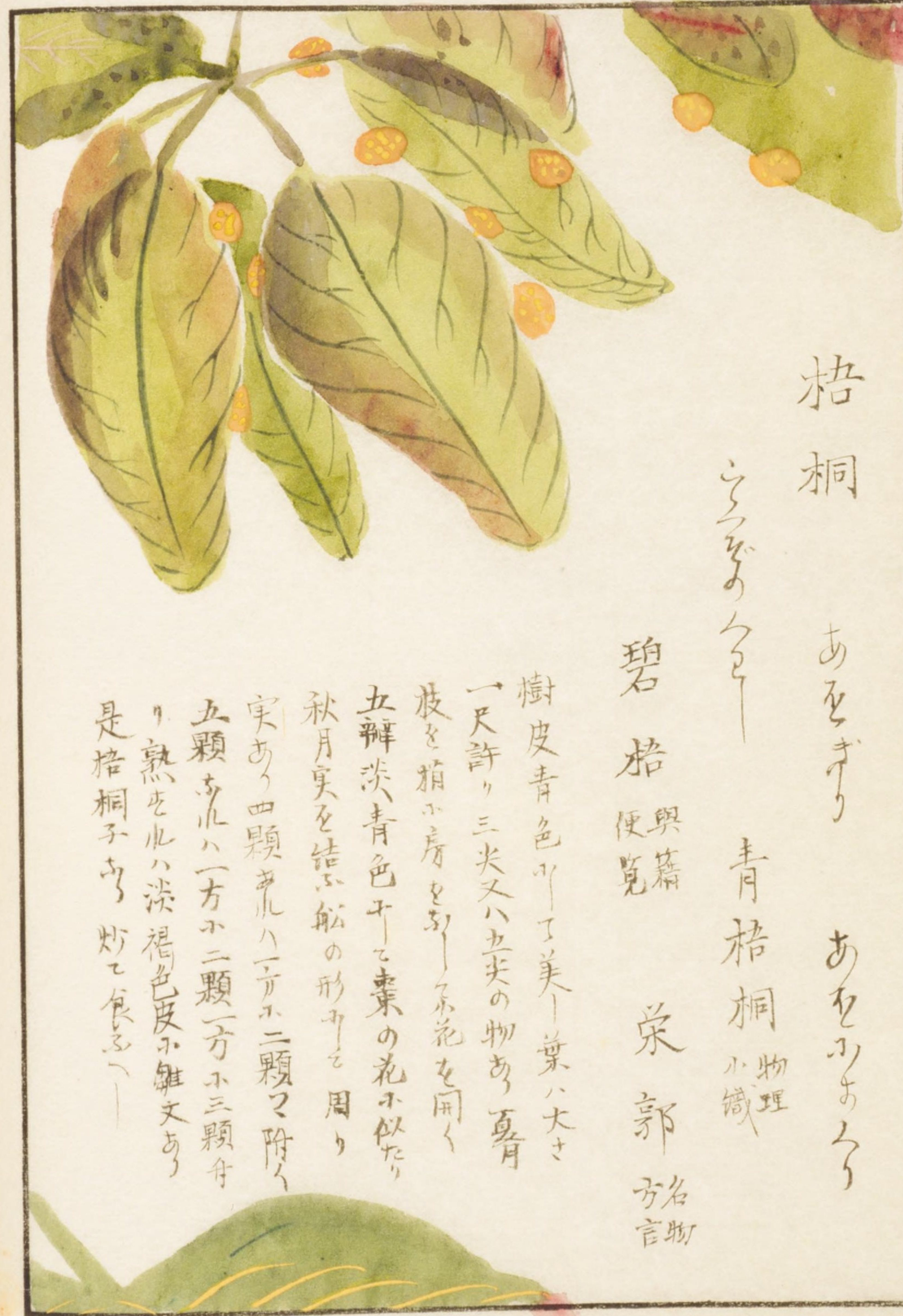


椅桐解いぬぎ
いぬぎ いぬぎ
いぬぎ いぬぎ

本草図譜

卷之八





梧桐

梧桐のくさ

あをまきり

あをのみくさ

青梧桐 物理

碧梧 興篇

棠郭 名物

樹皮青色なりて美し葉ハ大
 一尺許リ三尖又ハ五尖の物あり夏
 枝を拍小房を引く花を用く
 五瓣淡青色干て葉の花に似たり
 秋月実を結ぶ輪の形中を周リ
 実あり四顆五顆ハ一方ハ二顆マ附
 五顆五顆ハ一方ハ二顆一方ハ三顆
 あり熟を水に淡褐色皮不離文あり
 是梧桐子あり炒て食ふ

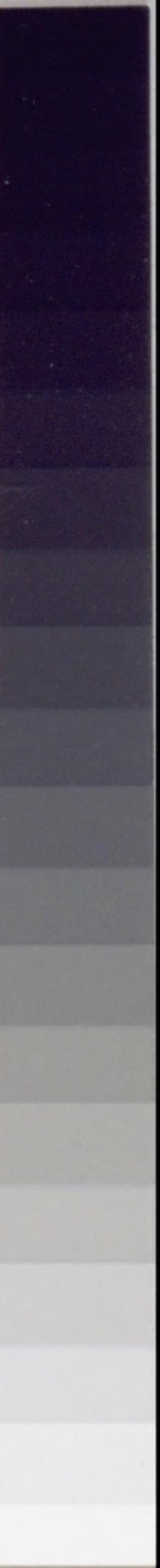
本草図譜
 卷之十一
 十一



罌子桐
 あめくぎり
 あめくぎりのき
 いんごのき
 とんい
 樹葉もふとふふ似て
 大の二尺許り葉少
 赤いありこれをせれ白
 き汁出初夏枝の間
 房をとりて白花を開き
 実を結ぶ一葉の内三四
 粒あり状大凡子の如
 一太毒あり里氏此実
 り油をとり燈油も
 甕、桐油の塗る用也

本草図譜
 卷之二十三
 九





本草図譜 卷之八十三

棟

あぶぢ

せんたんのき

山棟子

常山 集解

欄通

棟樹子

附方 端卷

棟樹果

外科 正字

棟實外臺 秘要

川鈴子

医家 入門

アサデラク蒨

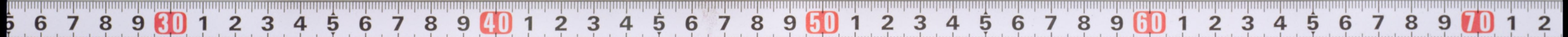
漢種の物肥前長崎に大樹あり枝葉和産の物と曰一唯其實大不
て龍眼の如く甚硬く中仁あり梨の仁に似て黒色なり其内味は苦
し薬用不入へし舶来の川棟子と曰一

一種

あぶぢ

處に人家に栽せし葉ハ鼠尾草に似て周りに鋸齒あり表光澤あり夏葉の間
より長き穂をわし紫花を開く大三四分後円き実を数顆結び下齒は
熟せれば黄色後白色となり味は苦みなり此苦棟とあり又実の長とある
ものあり其不曰一下齒あり田村氏の説に大和守田郡松山町の産ハ大士彈丸
の如く味は苦し薬用不入へし又伊豆の新嶋の産ハ実が細実ありて
味は苦し乾くときは薄しとつて此三品苦とありハ常用不立一

本草図譜 卷之八十三





本草図譜
卷之八十三

本草図譜
卷之八十三
九十一

一種
あめぢ



本草図譜 卷之十一

槐

多ふと和名

まふと和名

多ふと和名

五樹通 毛雲名物 聲音樹 詳註

四女樹 華夷考 古槐名

キニアヤキニム 旬

ホクホト 蘭



西胡子の説に長崎の漢種の物あり形状和産の品と異ふを引とつり此種江戸未了官園に栽せしる葉の形智の如くありて類し小く円く枝を分つて繁く夏月梢に穂を帯びて花を同く胡枝子花に似たり和黄色開ハ白色とふる稜莢を結ぶ長さ三寸

形豆の用ふ似て外とハ丸ありて蜂の腹の如く中ふ扁さきあり此物葉常の槐と異なり夜合さるるへが雅の守宮槐あり



本草図譜

卷之十一



本草図譜 卷之八十三



人家多く栽也樹高二丈許
りか至る葉ハ若クハ似て枝幹
深綠色老生ハ灰白色不変花
夏月枝の梢ハ穂状なり花を
開く形漢種と同一ノ實亦
漢種と同一此物之類類の記
葉細く一ニ青綠色但謂之槐
見乙



本草図譜 卷之八十三





本草図譜 卷之八

本草図譜 卷之八

一種 いぬまぐさ
ちりまぐさ

俗に紫檀の木といふ葉ハ常の
槐より至て大あり葉ハ深緑なり
樹皮褐色夏月花をば穂を向て
黄色の花を開く此物糸柱
の椽槐之凡槐類大樹と云
ハ中心紫色なり本理美
一 若と云々



本草図譜 卷之十三



檀
檀樹芽
放荒本草
夫木集豆
州方言

本草図譜 卷之十三



本草図譜 卷之八 十四

北國又豆苳ふたあり 葉皮刺楸ともしなるもの名あり又混在へり凡樹
長をれハ高さ二三余ふ至る葉ハ葉皮ハ似て甚大なり一葉五葉をふり
厚くして深緑色枝乾ハ粗大ニ早春葉と同く花を生け接骨木の花ハ
似て始紫色 形更の子の如く同く 時ハ黄色なりて 辨細く下齒ハ
大和本草ハちるがハ 鎗長刀の柄と木カケ 棒とは 折れ
とつり

莢 莢

かまぶきこ よそめ 江 ぶき 紀及 ぶき 名あり ぶき よつ ぶき 日
おかり瓠 かめ瓠 州 ぶき 州 ぶき 州 ぶき 州 ぶき 州
かま瓠 ぶき 瓠 ぶき 瓠 ぶき 瓠 ぶき 瓠 ぶき 瓠 ぶき 瓠
かこ瓠 ぶき 瓠 ぶき 瓠 ぶき 瓠 ぶき 瓠 ぶき 瓠 ぶき 瓠

切手楹通 核楹上 孩見拳頭救荒本草

小亦なりて高さ丈許ハ遇ハ葉ハ兩対シ形田ク周リハ 鋸齒アリ深緑色
少ク皺アリ長ニ寸許リ夏月枝の上ハ花を生けハ五瓣ハ白色ハ數百
族生シて傘ノ如ク後実を結ハ大ニ赤ハ豆ノ如ク秋ニ至リ熟シて赤色ハ
味ハ酸ク波リ里ノ小兒採リて食ハ不レ此木ハ折レ難ク故ハぬを
とルぬをハ新ヲ縛リてハぬをト

本草図譜 卷之八 十四





英蓮

本草図譜

卷之八十三

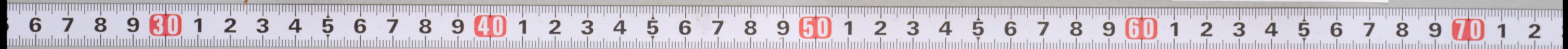
本草図譜 卷之十三

樹葉花とも前
條と同一く但実
熟てこれハ黄色
にして美し味又
前条と同一



一種

本草図譜 卷之十三

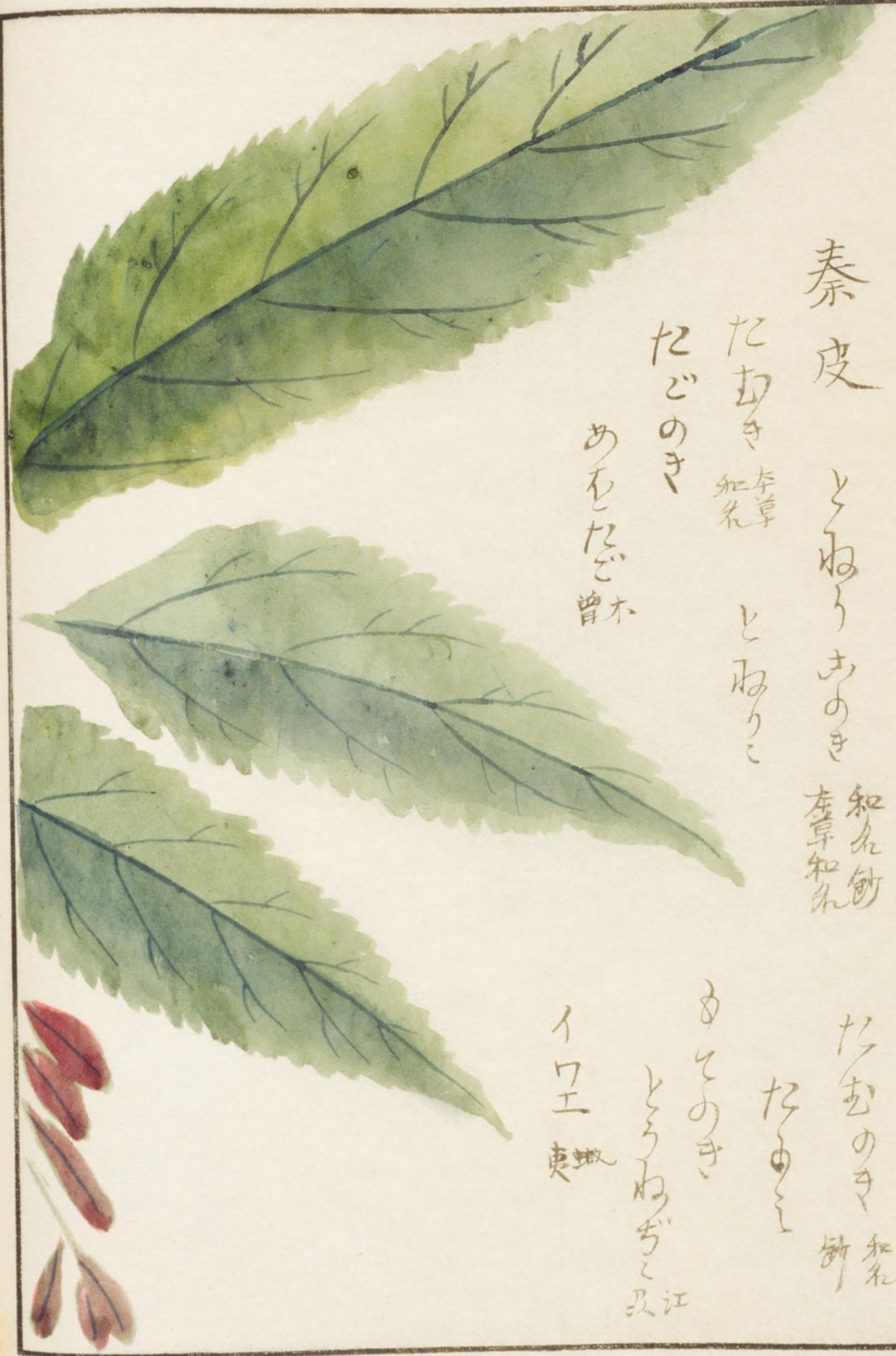


本草図譜 卷之三



岑皮 本草和名 引揚玄操
樊雞 同書引 難要訣
昔曆 上同 梲規 雅通
白辛樹 教荒 本草

フクヤミニスス羅
哥センボム
蘭荷



秦皮 とぬりあのみき 和名効 本草和名
たむき 和名
たごのき
あむたご 曾木

たむのき 和名 効
たゆき
あそのみき
とらぬぢく 江
イワエ 夷

本草図譜 卷之三

廿七



本草図譜 卷之八十一

諸國原野及武及小ハ本所也多ク樹高き二三丈葉共ハ対生シ葉ハ莖
ハ五葉或ハ七葉小シ形吳茱萸葉似テ薄シ春月枝の梢ハ葉曰時
ハ花を生ル黄白色の碎花簇生シ形母骨木の花小似テ下齒ハ此雄木
カ以下数種皆皮を剥キ水中ハ入ル時ハ其水忽チ青碧色カ華夷考カ
搾取其皮以水浸正青用洗眼痛人目中膚翳故色黯青色象也奈皮類
皆然ク葉ハ初メ一種並ニ雌木カシテ皮を用セテ一和産上品カ二船木カ
一又云船木の墨カハ奈皮汁を用テ色を助ルト云此事集解カ五カ前カ云
雌木カシテ其の葉尖長カシテ花ハ曰ク一葉ハ槭樹の葉カ似テ長ク下齒ハ
此れ備急本草成外の奈皮カ

一種

かむしだん
日光



本草図譜 卷之八十一



一種

シロツクモトク

葉の形状椴の葉に似て薄く大葉小葉雜り 叶生り梢に枝を分
ち穂を分ちて花を開く 形状秦皮に似て小く實も又秦皮より小
なり

加州濃州常州奥州野州日光山中にあり 葉ハ秦皮に同く大葉小
葉雜り小なるハ胡枝子の葉の如く大なるハ刀豆の葉の如く一茎五葉之
穂を分ちて花を開く 碎辨の小黄花横生り日光及び會津にあり 土人
この皮にて諸の器物を造る 灰白なりて白き斑あり

本草図譜 卷之八十一



本草図譜 卷之三十一

一種

めまりのき

葉の形前條不似て周りに鋸齒あり葉の先は丸くしてまりの如し



合歡

ねふりのき 和名 針 かつか 戸葉 さね手 上田
 ねふ 上田 ねむりのき 京 むしひのき 日黄
 ねふ 戸江 ひろ 外所 合歡 槐 典義
 黄昏 本経 葉 榮花樹 葉病 迴者 有情樹 葉
 椿 南青 月礼

原野に多く自生し高さ二三尺に至る。枝葉互生し葉は丸く似て頗る
 細く密なり其葉の刻は同き中の刻より合て決明又くちねむり同し
 夏月梢の葉の間に穂をおりて一莖数十花を開く形状絲の如く米白色
 して本淡紅色後葉を結ぶ扁くして扁豆に似て長くて硬く中々
 子あり形は莢に似たり

本草図譜 卷之三十一



本草図譜 卷之十三

皂莢

カシノヅクノキ 本草和名 さいかつ 万葉集 さいりち 江前
 ふちのき 和名 さあかあ 州 さいかつ 前
 アカシア アユルユケラ 和名

此呂文政年中長崎より一種の物を持来る長さ五六寸幅一寸許り直
 して曲戻られ甚厚にして刀豆莢の如く潤澤なり中実あり指頭
 の大さなりて形海松子の如し試みこけを地を下まふ芽を生じ葉の
 形和産と異り周りに浅き鋸齒ありて茎の末に付く葉ハ小く先不付
 く葉ハ大なるを竹葉椒の如く刺あり肥て短し夏月葉の間ハ長き穂
 を生じて六瓣の黄緑色の小花を開く形和産と同し後莢を結ぶ
 形船来の物に似て皮厚く肥て曲りぬ

船来の物



船来の
実より
生ずる物

本草図譜 卷之十三





本草図譜 卷之十三

人家道傍にありて大樹と云ふ春嫩葉を採り菜と見形合歡の葉に似て
粗大あり夏月長き穂を生じて六辨の黄緑色の小花を同き後角を結
長さ一尺余を一寸余莢皮薄くして屈曲してうねり中扁き実あり此莢を
煎し漆物に用ひ時珍の説に一種長而瘦薄枯燥不粘と云ふの云

猪牙兒莢 解集

和産あり舶来
の物あり洞き罌
令長き三四寸象
へて尖り曲りて
猪牙の如し



本草図譜 卷之十三



本草図譜 卷之八十三

知産ふく古渡の物稀小あり莢の形本も先も尖りて
紫藤の莢に似て潤く厚く長さ三四寸又五六寸赤黒
色中赤褐色の實あり堅く指頭の大さ之前小
云々の長崎より来り物の中より生じて樹枝とも刺
あり葉の知産の物より大に粗長くして後花あり形状
又知産の物より小に莢を結ぶ形船形の物あり此品止不肥兒莢成へ



肥兒莢

本草図譜 卷之八十三



本草図譜 卷之八十四目録

同	同	同	無食子	一種	無患子	本草圖譜卷之八十四目録
同上	物印忙の番	ト子ウの番	船末の物	物印忙の圖	むらろ	喬木類
九	八	七	六	四	一	
婆羅得	同	訶梨勒	同	藥萃	鬼見愁	
不詳	同上	船末の物	物印忙の番	せんらんかの わくわく	八重山のむらろ	

本草図譜 卷之八十四目録

